

第1学年 美術

1 美術を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、対象や事象を造形的な見方・考え方で捉え、理解するとともに、意図に応じて創造的に表現する能力を養う。また、自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や工夫などから、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。そうしたなかで、楽しく美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

○色や形、素材や用具などについての基礎的な知識を理解するとともに、それらの特徴を生かし、意図に応じて表現方法を工夫し、制作の順序などを考えながら、見通しを持って表現することができる。

○身の回りにある自然や人工物、美術作品などの造形的なよさや美しさについて考え、見方や感じ方を広げるとともに、自分の考えたこと、表現したいことなどを言葉や絵などで表現し、より効果的に伝えるための工夫をすることができる。

3 使用教材と持ち物

使用 教材	教科書 美術資料	持 ち 物	教科書 美術資料 鉛筆を含む筆記用具 デザインセット スケッチブック その他各単元で必要なもの
----------	-------------	-------------	---

4 学習の取り組み方

学 習 の 進 め 方	○さまざまな造形活動のなかで、その単元のもつ造形的なよさや美しさは何か考える。そうしたなかで、自分の感じたことや表したいことを明確に持ち、自分にあった主題を生み出し、それを基に構想を練っていく。構想を練る際はだまかにアイデアを描きとめていき、目指す表現の形にしてい ○作品を制作する際は、アイデアを出す・構想を練る・作品に取り掛かる、の各過程において、より良い表現は何か、全体と部分の関係などを踏まえ、粘り強く取り組む。 《定期テスト》前期後期共に期末テストのみ行います。テスト発表前後に説明をしますが、日常の美術の授業での内容が入ります。
学 習 上 の 注 意	○授業の基本的なルールを守る。チャイム席・持ち物・提出物（期限）などを意識すること。良い作品を作る上でも大切なことである。 ○紙や画材を大切に扱い、制作中から作品に愛着を持って進めていく。 ○準備や片付け、用具等の手入れまでしっかりと行い、気持ちよく活動する。

5 1年間の学習計画

学 期	月	単 元 計 画	試 験
前 期	4	オリエンテーション 描く楽しみ	期 末
	5	・明暗をあらわそう ・立体的にあらわそう 文字の基本 レタリング（明朝体・ゴシック体）	
	6	色の仕組み ・色彩の効果、混色 絵文字	
	7	・アイデアスケッチ ・制作	
	8	ポスター作成 ・人権ポスター	
	9	*夏休みの課題	
	10	連続する美しさ ・暮らしを彩る模様について ＜連続模様の制作＞	
	11	・アイデアスケッチ ・制作	
	12		
後 期	1	写実的表現	学 年 末
	2	・そっくりにつくる	
	3		

6 評価について

評価の観点		評価の方法
主 体 的 に 取 組 む 態 度	○進んで発想し構成する力や表現する力を身につけることができる。	行動観察
	○よりよい表現をめざして試行錯誤しつつ、創意工夫し粘り強く学習に取り組むことができる。	提出物 振り返りシート
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	○自分の意図に応じて表現方法を工夫したり、制作の順序など、学習の進め方について考えながら、見通しを持って表現することができる。	テスト
	○テーマに基づき自分なりに考え、発想することができる。	行動観察
知 識 ・ 理 解	○材料のもつ性質や特性をいかして構想することができる。	ワークシート
	○表現意図や表現方法などを確かめ、よりよいものにしようと構想することができる。	振り返りシート
	○感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取ることができる。	作品評価 テスト
	○基礎的な技術を身につけ、制作に活用することができる。	行動観察
	○用途や機能、使用する者の気持ちを考え創意工夫して表現することができる。	ワークシート
	○材料や用具の特性をいかして、使い方、作り方などの基礎的技術を身につけることができる。	振り返りシート 作品評価
	○作品等を感じ取るうえで必要な知識・理解をすることができる。	テスト

1 美術を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、対象や事象を造形的な見方・考え方で捉え、理解を深めるとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し創造的に表現する能力を養う。また、自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や創造的な工夫、美術の働きなどを幅広い視点で捉え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。そうしたなかで、主体的に美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

○色や形、素材や用具などについての基礎的な知識を理解するとともに、それらの特徴を生かし、意図に応じて表現方法を工夫し、全体と部分の関係などに注意し、制作の順序などを考えながら、見通しを持って表現することができる。

○身の回りにある自然や人工物、美術作品などの造形的なよさや美しさについて考え、見方や感じ方を広げるとともに、自分の考えたこと、表現したいことなどを言葉や絵などで表現し、より効果的に伝えるための工夫をすることができる。

3 使用教材と持ち物

使用	教科書	持	教科書 美術資料 鉛筆を含む筆記用具
	美術資料	ち	デザインセット 教科ファイル スケッチブック
教材		物	その他各単元で必要なもの

4 学習の取り組み方

学 習 の 進 め 方	○さまざまな造形活動のなかで、その単元のもつ造形的なよさや美しさは何か考える。そうしたなかで、自分の感じたことや表したいことを明確に持ち、自分にあった主題を生み出し、それを基に構想を練っていく。構想を練る際はだまかにアイデアを描きとめていき、目指す表現を形にしていく。 ○作品を制作する際は、アイデアを出す・構想を練る・作品に取り掛かる、の各過程において、より良い表現は何か、全体と部分の関係などを踏まえ、粘り強く取り組む。 《定期テスト》前期後期共に期末テストのみ行います。テスト発表前後に説明をしますが、日常の美術の授業での内容が入ります。
学 習 上 の 注 意	○授業の基本的なルールを守る。チャイム席・持ち物・提出物（期限）などを意識すること。良い作品を作る上でも大切なことである。 ○紙や画材を大切に扱い、制作中から作品に愛着を持って進めていく。 ○準備や片付け、用具等の手入れまでしっかりと行い、気持ちよく活動する。

5 1年間の学習計画

学期	月	単 元 計 画	識
前期	4	オリエンテーション 生活に息づく美術 ・「デザイン」って何だろう？	期末
	5		
	6	・空間デザインについて ＜ベンチのデザイン＞ ・アイデアスケッチ	
	7	・制作	
	8	夏休み課題「ポスター」	
	9		
後期	10	「空間」を描く ・遠近法について ・一点透視図法	学 年 末
	11	・二点透視図法	
	12	＜名所明和百景＞ ・アイデアスケッチ	
	1	・制作	
	2		
	3		

6 評価について

評価の観点		評価の方法
主体的 に取 組 む 態 度	○進んで発想し構成する力や表現する力を身につけることができる。	行動観察
	○よりよい表現をめざして試行錯誤しつつ、創意工夫し粘り強く学習に取り組むことができる。	提出物
	○自分の意図に応じて表現方法を工夫したり、制作の順序など、学習の進め方について考えながら、見通しを持って表現することができる。	振り返りシート テスト
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	○テーマに基づき自分なりに考え、発想することができる。	行動観察
	○材料のもつ性質や特性をいかして構想することができる。	ワークシート
	○表現意図や表現方法などを確かめ、よりよいものにしようと構想することができる。	振り返りシート
知 識 ・ 理 解	○感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取ることができる。	作品評価 テスト
	○基礎的な技術を身につけ、制作に活用することができたか。	行動観察
	○用途や機能、使用する者の気持ちを考え創意工夫して表現することができる。	ワークシート
	○材料や用具の特性をいかして、使い方、作り方などの基礎的技能を身につけることができる。	振り返りシート 作品評価
	○作品等を感じ取るうえで必要な知識・理解をすることができる。	テスト
	。	

1 美術を学ぶ意義・目的・・・何のために学ぶのか

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、対象や事象を造形的な見方・考え方で捉え、理解を深めるとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し創造的に表現する能力を養う。また、自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や創造的な工夫、美術の働きなどを幅広い視点で捉え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。そうしたなかで、主体的に美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 学習到達目標・・・この1年間を通して、どのような力を身につけていくのか

○色や形、素材や用具などについての基礎的な知識を理解するとともに、それらの特徴を生かし、意図に応じて表現方法を工夫し、全体と部分の関係などに注意し、制作の順序などを考えながら、見通しを持って表現することができる。

○身の回りにある自然や人工物、術作品など形的なよさや美しさについて考え、見方や感じ方を広げるとともに、自分の考えたこと、表現したいことなどを言葉や絵などで表現し、より効果的に伝えるための工夫をすることができる。

3 使用教材と持ち物

使用	教科書	持	教科書 鉛筆を含む筆記用具 美術資料
	美術資料	ち	デザインセット 教科ファイル スケッチブック
教材		物	その他各単元で必要なもの

4 学習の取り組み方

学習の進め方	○美術とは何か、美術を学ぶ理由を伝え、得意な人だけが評価され伸びていくような先入観や、不得意との自己評価による苦手意識を克服する。 ○課題について理解しようと努め、制作活動を通して何を得るかを考える。 ・説明を良く聞き、自分のイメージに必要な表現を探究する。 ・構想を練る際はだまかにアイデアを描きとめていき、目指す表現を形にしていく。 ・作品を制作する際は、アイデアを出す・構想を練る・作品に取り掛かる、の各過程において、熟考する。手を動かす時間と同じくらい、見たり考えたりする時間は大切で、制作活動の土台となる。先生に質問する・他の生徒の制作の様子を観察するなどを心掛け、より良い作品となるよう努力する。 《定期テスト》前期期末テスト・後期中間テストのみ行います。テスト発表前後に説明をしますが、日常の美術の授業での内容が入ります。
学習上の注意等	○授業の基本的なルールを守る。チャイム席・持ち物・提出物（期限）などを意識すること。良い作品を作る上でも大切なことである。 ○紙や画材を大切に扱い、制作中から作品に愛着を持って進めていく。 ○制作においては自ら創意工夫をすること。さらに積極的に先生にアドバイスを求め、難しい表現にもチャレンジし、イメージする完成図を諦めないこと。

5 1年間の学習計画

6 評価について

学期	月	単 元 計 画	識
前期	4	オリエンテーション 自画像 ○自分を見つめて ・鉛筆画	期末
	5	○モダンテクニック ・いろいろな技法を学ぶ	
	6		
	7	○本当の自分 ・イメージ画 アイデアスケッチ	
	8	制作	
	9		
後期	10	思い出を封印する	中間
	11	・アイデアスケッチ ・原型作り	
	12	・型作り	
	1	・削り、磨く	
	2		
	3	3年間のまとめ	

評価の観点		評価の方法	
主体的に取り組む態度	主 体 的 に 取 組 む 態 度	○進んで発想し構成する力や表現する力を身につけることができる。 ○よりよい表現をめざして試行錯誤しつつ、創意工夫し粘り強く学習に取り組むことができる。 ○自分の意図に応じて表現方法を工夫したり、制作の順序など、学習の進め方について考えながら、見通しを持って表現することができる。	行動観察 提出物 振り返りシート テスト
	思 考 判 断 表 現	○テーマに基づき自分なりに考え、発想することができる。 ・ ○材料のもつ性質や特性をいかして構想することができる。 ○表現意図や表現方法などを確かめ、よりよいものにしようと構想することができる。 ○感性や想像力を働かせて、自分の見方や感じ方で作者の心情や意図、表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取ることができる。	行動観察 ワークシート 振り返りシート 作品評価 テスト
	知 識 技 能	○基礎的な技術を身につけ、制作に活用することができる。 ○用途や機能、使用する者の気持ちを考え創意工夫して表現することができる。 ○材料や用具の特性をいかして、使い方、作り方などの基礎的技能を身につけることができる。 ○作品等を感じ取るうえで必要な知識・理解をすることができる。	行動観察 ワークシート 振り返りシート 作品評価 テスト